

【22年度 栗東市受託事業】

いっとう多文化交流フェスタ

～世界ってこんなに身近なんだ！～



野村昌弘市長

日時:2月11日(祝・金)10時～14時
会場:栗東市立中央公民館
主催:りっとう多文化交流フェスタ実行委員会
栗東市・栗東国際交流協会
共催:済生会滋賀県病院・JICA 大阪国際センター
栗東市児童外国語学習実施協議会・SHIPS



開会前の打合せで挨拶する
小松原実行委員長(左)



講演 ワールド・アミーゴ・クラブ
代表理事 吉積 尚子さん

国籍、言語、文化の違いを認め、尊重しあいながら共に暮らしていく「多文化共生のまちづくり」を推進していこうと、「りっとう多文化交流フェスタ」を開催しました。これは、栗東国際交流協会が栗東市の委託を受け、「多文化共生とは何か」を、みんなで考え、体験し、活動の輪を地域に広げていくきっかけづくりの場にしようと初めて開いたものです。

はじめに主催者側を代表してRIFA 岡田明男会長、野村昌弘市長が挨拶を行ったのに続き、県内で暮らす外国籍の子どもたちへのサポートを行う近江八幡市のボランティアグループ「ワールド・アミーゴ・クラブ」代表理事の吉積尚子さんが、「多文化を感じて、楽しもう」と題した講演を行いました。(詳細は裏面に掲載)



安部啓子先生のフラメンコ体験指導に、客席も盛り上がる



ロシア民謡カリンカ(「世界の歌」から)
石川会員(歌)・奥村副会長(ピアノ)



永田先生ご指導の韓国語紙芝居
出演は受講生と特別参加のOB



史先生と受講生、さらに当日参加の中国人
の方々で、中国歌「月亮代表我的心」を合唱



中国語受講生による
China café



英語でポップコーン
(ハローキッズ)

【吉積 尚子先生の講演を聞いて 一要約と感想一】

2年間栗東に住み、今は近江八幡で活躍されておられる吉積先生のご紹介があり、何かスーッと引き込まれていきました。先生は、ご主人の仕事の関係でアメリカに居住された時、地域の人々の温かい受け入れに感動され、その体験が、今の活動に入られた「キックケ」だそうです。直接には、ブラジルのチアーゴ君と接したのが初めての関わりで、外国語のボランティアに関わることとされたそうです。

先生の講演は「クイズで考えてみよう」で始まり、“多文化共生は地域の人たちと共に生きていくこと”だと言われています。今、日本に住む外国籍の方は2,186,121人(1.71%)で約60人に一人が外国籍の人です。その中で一位は中国の方で680,518人、2位は韓国・朝鮮人578,496人、3位ブラジル267,456人、4位フィリピン211,716人、5位ペルー57,464人、6位アメリカ52,149人です。滋賀県には26,471人(1.87%)が居住されていますが、減少しつつあるようです。滋賀県には9,752人のブラジル人がおられますが、工場が多くあるからだそうです。その中でも湖南市が2,347人(4.24%)と一番多く、栗東には1,020人(1.6%)で、ブラジル325人、韓国・朝鮮234人、中国196人、ペルー133人の方が居住されているとのことでした。

外国籍の方は、税金を払う義務があっても、公権力の及ぶ仕事(選挙、教育、消防等)にはつせず、厳しい条件の中で生きておられます。一緒に共生していく上で、外国籍の人々は「3つのカベ」があります。「言葉のカベ」、「生活のカベ」、「心のカベ」です。日本の地域社会に溶け込みたいが、受け入れてもらえない、どうやって外国籍の方々の中に飛び込んでいけばいいのかわからない、そのような中で、近江八幡市では、これらを解消し、共生していくためにいろいろと取り組みを行い、成果を上げておられます。ワールド・アミーゴ・クラブ、多文化共生市民ネットワーク、多文化保育園「みんなのいえ」等の活動を展開し、外国籍の人たちが地域で共生される中で自分も地域の一員として役に立っていると自覚されるように生活習慣、食生活、子どもの教育、保育等について、勉強していくグループを立ち上げておられます。

例えば、ワールド・アミーゴ・クラブで学ぶ子どもたちは、学校で教えてもらえないことを学び、大人たちもお楽しみスナックでカラオケなどを楽しんでいます。2000年から始めた活動では夏休みや冬休みの生活体験学習を通して、まずは生活の安定を図り、次いで教育への支援と活動の輪を広げ、子どもたちは中学、高校、大学入試へと大きな夢を抱くようになっていきます。

でも、やはり、心が折れたり、いじめに出あったりする子もいます。外国籍児童・生徒向けの日本語教室の『虹教室』では、日本語指導や学校給食を体験するなどして学校につなぐ努力も続いています。多文化共生社会への新しい取り組みは、今、外国につながる若者たちが中心となり、わいわいサミット交流会を立ち上げ、その活動は拡大しつつあります。

私たち栗東でも、これらの輪を広げられるよう、栗東国際交流協会が少しでもお役に立たねばならないと講演を通して強く感じました。

世界の言葉で「こんにちは」「ありがとう」を全員で合唱し、心地よい余韻を残しながら講演会が終了しました。

“がんばるぞ栗東も!”を合言葉に。

(記事：K.K)

(表面から つづく)

2階会議室・1階ロビーや和室でも、共催・協力団体がパネル展示や体験ブースを設けたほか、外国籍の住民を対象に確定申告勉強会や健康相談会を開きました。また、屋外では屋台が軒を連ね、来場者が食の多文化を楽しんでいました。

【国際色豊かな様々な展示や体験ブース】



JICAのパネル展示「海外移住の歴史」



異国の音色にひかれる楽器体験



子どもたちでにぎわう世界の遊びコーナー



日本の餅つき



ペルー料理



ブラジル料理



トルコのケバブ



台湾ラーメン



たのしいプラ板作り



メキシコ衣装に大はしゃぎ!



仲間とハイ、ポーズ

特別号は、取材から印刷まで、すべて総務広報委員会(ボランティア)で制作しています。協力者募集中!

(記事：A.O)